



ドライフラワーが生む 貴重な触れ合い。

木の実を使ったドライフラワー無料体験。子供から大人まで、多くの人たちがドライフラワー作りを体験し、たくさんの笑顔をみせていた。

この取り組みは現代社会、学科土屋薫先生とゼミ生が毎年おこなっている。大盛況のため、用意していたテーブルだけでは数が足り

ず、椅子に座って必死にドライフラワーを作っていた子供たち。来年度への嬉しい課題だ。

土屋先生によれば、ちかごろでは、森におちている木の実がお店で売っているという。わざわざお店にくよりも、流山の森に出かけよう。

グリーンフェスティバル第1弾

グリーンフェスティバルで 広がる地域との和

5月4日、流山おおたかの森駅前広場でグリーンフェスティバルが開催された。江戸川大学からもドライフラワー、グリーンチェーンの広報活動、イベントMCと多くの学生、教授が参加した。(文: 君島孝規、黒田真璃亜)

流山を緑豊かな街に。

「森や川だけじゃなく、家庭で育てている小さな植物もグリーンチェーンに大きく貢献しているんです。」そう話すのは現代社会学科小百合先生だ。ペランダで咲いている小さな花も地域全体に広がれば大きな花となる。

流山グリーンチェーン戦略は流山市が緑豊かな街にするために取り組んでいる開発事業である。

恵先生はゼミ生とともにグリーンフェスティバルに参加。ゼミ活動を通して作られた流山気温分布図を展示したり、グリーンチェーンについての説明を市民の人に伝えたりと、元気に走り回っていた。

ライフデザイン学科3年高岩知成さんは「ゼミ活動の一環として、実際に足を運んで流山の環境調査を行いました。ゼミ活動で学



んだことを地域の高校生に教えたり、いっしょに環境調査にも取り組みました。ことだと思えます。グリーンチェーン活動を広めて、さらに緑豊かな町にしていきたいです。」高岩さんの目は輝いていた。

MC初挑戦頑張りました!

イベント当日のMC担当はマス・コミュニケーション学科3年の上原美樹さん(写真、右) 同2年の須藤若菜さん(写真、左)と高橋彩乃さん(写真、中央)の3名が務めた。



MCをやるきっかけは、マス・コミュニケーション学科教授の小倉淳先生に「グリーンフェスティバルのMCやってみるか」と言われたこと。しかし、MC担当が決まったのはイベント開催の1ヶ月前。さらにイベントの詳細を知ったの

が開催の1週間前。本格的な打ち合わせは当日。時間がないなかでのMCとなつた。MCを務めた高橋さんは「緊張したんですがお客様の顔を見ながらできたのでよかったです。どうやっ

たら面白く伝わるのかをもっと勉強していきたいと思えます」と話した。須藤さんは「またイベントがあれば次は今回よりもうまくできるように頑張りたいです。MCについていろいろ勉強していきたいです。まだまだこれからです」と意気込みを語ってくれた。

今回のMC初挑戦は彼女たちにとって貴重な経験になった。はじめの一步を踏み出した彼女たちの挑戦は続いていく。

学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。

記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。

「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう!

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 企画総務課